



# 2024年度 大学入学共通テスト Navi

出題分析・出願動向・個別試験に向けて

Z会東大進学教室  
Z会進学教室大学受験部

共通テスト結果(1/20時点)	提出者数	平均点	最高点	最低点	23平均点	昨年差
総合点(900点満点)	247	699.1			674.7	<b>24.4</b>
総合点(5教科理系900点満点)	101	693.4			664.3	<b>29.1</b>
総合点(5教科文系900点満点)	56	709.3			690.4	<b>18.9</b>
英語(リーディング)	247	77.5	100	40	80.8	-3.3
英語(リスニング)	247	86.7	100	55	83.6	3.1
数学(1A)	235	72.9	100	30	73.4	-0.5
数学(2B)	231	79.1	100	27	79.4	-0.3
国語	246	152.3	194	73	142.3	<b>10.0</b>
国語(現代文)	247	76.6	100	46	74.2	2.4
国語(古文)	246	35.5	50	12	34.0	1.5
国語(漢文)	245	40.3	50	5	34.8	5.5
物理	135	81.4	100	36	78.7	2.7
化学	149	72.6	100	22	62.4	<b>10.2</b>
生物	13	77.2	96	57	45.9	<b>31.3</b>
物理基礎	17	41.8	50	28	36.8	5.0
化学基礎	48	38.4	48	6	40.3	-1.9
生物基礎	55	39.0	50	18	34.8	4.2
地学基礎	34	42.7	50	30	43.3	-0.6
世界史B	49	83.2	100	43	80.3	2.9
日本史B	60	77.0	97	46	78.4	-1.4
地理B	132	77.7	100	52	71.6	6.1
倫理・政経	54	68.8	88	50	67.0	1.8
現代社会	14	66.6	76	40	67.3	-0.7
倫理	3	69.7	76	59	63.0	6.7
政治経済	3	61.3	75	54	57.8	3.5

# 全体総括

2024年度の大学入学共通テストの全体の難易度は【前年並～やや易化した】といえる。出題傾向については、共通テストが導入してから一貫して、長いリード文から始まる出題や、図表や、見慣れない資料を使用しての出題が多くみられたが、一部教科ではセンター試験時代と似た出題がされたケースも見られた。とはいえ、「知識や情報を活用する力」に加え、短時間に設問の趣旨を理解する速読力・読解力が強く求められる試験という傾向は今後も変わらないだろう。

それでは教科別に傾向を見ていこう。

**【英語】**リーディング:分量の増加でやや難化したという見方があるが、文章・設問が難化したわけではなく、難関大志望の受験生においては、想定した得点を取ってもらいたい出題であった。リスニング:ほぼ前年並みで取り組みやすく、失敗しづらい試験だった。難関大志望の受験生にとっては、リーディングで高得点を取れたかがポイントだった。

**【数学】**平均点が昨年をわずかに下回る程度で、ほぼ昨年並の難易度。2022年度並の難易度を想定し対策していた受験生にとっては落ち着いて取り組めたであろう。各単元、取り組みづらい問題も少なく、難関大志望者であれば理系:9割、文系:8割はキープしておきたい。

**【国語】**全体で高得点を確保するためにはポイントとなる科目の一つであるが、関連資料含めて読解させるスタイルにこだわるあまり、(課題文の読解量は多いものの)その分設問自体は平易であった。この出題であれば9割以上の高得点も普通に目指せる内容であった。

**【理科】**昨年大幅に難化した生物が大幅易化したため、科目選択ごとの有利不利はほぼなかった。共通テストになってから実生活に紐づいた出題がなされる傾向が強くなり、今年度もそれを外してはいなかったが、4回目となり受験生も大分慣れてきた感がある。

**【地歴】**地歴:昨年と同様～やや易化の傾向で、文系の個別試験で使う科目はもちろんのこと、理系の地理選択者も高得点を望める出題であった。倫理・政経:政経分野での出題が多岐に渡り、苦戦した受験生が多かった様子。

2024年度共通テストは、全体を通じて、実力相応の力が発揮しやすいテストだったといえる。各大学のボーダーラインも昨年度に近く、昨年同様強気の志望動向であることが予想される。

**【受験生へ】**共通テストの受験お疲れ様でした。悲喜こもごもであるとは思いますが、結果を受け入れて、次の打ち手に移ってほしいと思います。今回の結果はある意味今の時点でのあなたの力量を正確に示しているものですので、特に個別試験で使う教科・科目については、冷静に振り返り、模試同様に発見した穴を埋めるようにしてください。これから個別試験まであと1ヶ月、気後れすることなく全力を尽くすためには、Z会の直前講習や大学別実戦を活用し、バランスの良い学習プランを心がけるとよいでしょう。もし共通テストの結果で出願先の変更を考えている受験生や直前の学習方法に迷いがある生徒は、一人で思い悩む前に教室に相談に来て下さい。

**【高2生へ】**今回の共通テストの問題に取り組んで、まずどのような出題か、現時点でどの程度対応出来るかをぜひ確認するようにしてください。皆さんが受験する2025年度より新課程入試となりますが、読解力や思考力を試す個別試験寄りという傾向は一貫しているため、今からすぐ共通テストを意識した対策を進める必要はなく、まずは個別試験対策にじっくり取り組むようにしてください。なお、今回の共通テストに取り組んでできなかった問題については、日と時間を改めてじっくり取り組む機会を作るとよいでしょう。

**【高1生へ】**英・数IA・国について、制限時間を意識することなく、問題に取り組んでみてください。2025年度からの新課程により、科目数が増えさらなる負担増になるため、英数国の主要3科目の学習課題は早期に発見、対策を心がけてください。

# 出願動向

各予備校のリサーチより、各大学のボーダーラインが出揃った。ここでは、東大・一橋大・東工大・首都圏国公立医学部の現時点での志願者動向から第一段階選抜ラインと出願可能ラインを予想していく。

リサーチの後、各予備校から発表される判定は、毎年、最終的な出願者の数に少なからず影響を及ぼす。第一段階選抜予想ラインが高いところからは、ラインぎりぎり～ラインに満たない受験生が他大学・他学部へ流出することも考えられる。その中でも、東大に関しては『東大ならば学部にかかわらずどこでもいい』という層が多い点が他の大学に見られない特徴で、毎年受験生の他類への動きがあることを押さえておこう。高得点者が多いが、個別試験にかかる比重が大きいため、Z会東大進学教室/Z会進学教室大学受験部の直前講習、直前大学別実戦を受講し、最後まで記述力・論述力のブラッシュアップと頻出事項の総点検に努めて欲しい。

## 東大文系動向

各予備校の第一段階選抜ライン予想は【駿台／河合】で、文一【600／615】、文二【620／630】、文三【600／640】となっている(英語リーディング:リスニングの配点比率7:3に注意)。

駿台データネットによる志望者数の前年比は、文一88%、文二97%、文三91%である。

共通テスト得点が900→110に圧縮換算されることを勘案すると、第一段階選抜を突破すれば個別試験

での勝負は可能である。ただし、駿台データネットによるボーダーライン予測(B判定)は文一780(86.7%)、文二775(86.1%)、文三775(86.1%)であり、仮に各類の第一段階選抜ライン予想の得点であった場合には、個別試験に換算して文一22.0点、文二18.9点、文三21.4点のビハインドとなる。共通テストで思うように点が伸びなかった場合は厳しい戦いになることが予想される。

いずれの科類でも個別試験勝負となるため、個別試験までの一ヶ月の過ごし方はとても重要である。

1点でも多く得点を積み上げられるよう余念なく対策を進め、当日も1点にこだわり粘り、合格をつかみとってほしい。

## 東大理系動向

各予備校の第一段階選抜ライン予想は【駿台／河合】で、理一【700／705】、理二【680／685】、理三【765／750】となっている。

駿台データネットによる志望者数の前年比は、理一106%、理二78%、理三104%である。

共通テストでの得点が900→110に圧縮換算されることを勘案すると、第一段階選抜を突破すれば個別試験での勝負は可能である。だからこそ油断することなく2次対策を行いたい。

駿台データネットによるボーダーライン予測は理一805(89.4%)、理二800(88.9%)、理三850(94.4%)であり、仮に各類の第一段階選抜ライン予想の得点であった場合には、個別試験に換算して理一12.8点、理二14.7点、理三10.4点のビハインドとなる。

ここからの対策で、個別試験の目標を押し上げることが可能ならば、ボーダーライン付近でも強気の出願も可能。個別試験に向けて、残り約一ヶ月、合格点確保のために、1点の重みを感じて、1点でも多く点数を取れるように頑張ってもらいたい。



# 出願動向

## 一橋大動向

各予備校の第一段階選抜ライン予想は、【駿台/河合】で法学部【635(70.6%) / 648(72.0%)】、経済学部【630(70.0%) / 619(68.8%)】、商学部【610(67.8%) / 522(58.0%)】、社会学部【660(73.3%) / 648(72.0%)】、ソーシャルデータサイエンス(SDS)【675(75.0%) / 664(73.8%)】となっている。駿台データネットによると全体では、3年連続志願者数増加の反動はなく例年並。社会学部は前年111%とやや増加している。

ボーダーライン予測は【駿台/河合】で法【226(83.7%) / 221(81.9%)】、経済【174(82.9%) / 170(81.0%)】、商【208(83.2%) / 205(82.0%)】、社会学部【159(88.3%) / 155(86.1%)】、SDS【204(85.0%) / 202(84.2%)】となっている。

経済と商でボーダーに差があるため、商→経済への変更が一部起こりえるが、その場合、経済の競争倍率はさらに上がる。この後は、個別試験の形式が独特で配点が高く、合格最低点も高くないという一橋の特徴からいっても、いかに個別試験の対策をしたかで明暗が分かれる。過去問に綿密に取り組み、アウトプットを磨こう。

▼後期試験(経済学部・SDS)については、過去に比べ第一段階選抜ラインは下がっているが、ボーダーラインは例年どおり高水準。SDSは志願者減の予想だが、理系受験者の流入もあるので、志願動向に注意が必要。

## 東工大動向

2021年度入試から実施されることになった第一段階選抜(4.0倍)。昨年度志願倍率では若干名が引っ掛かる計算になるが、影響は少ないと思われる。注目される第一段階選抜ライン予想は、駿台は全学院【500】、河合で【557】となっている。以前の基準点であった600点程度を取れば出願可能との予測であるが、東大理系からの志望変更可能性もあり注意が必要。前期日程は個別試験ですべてが決まるため、ここからが本番である。共通テストとは桁違いの難度の数学や理科、分量の多い英語から、1点でも多く取るために演習をすすめていこう。駿台データネットでの学院別の前年度比の志望者数をみると、環境・社会理工学院は、85%と減少、物質理工学院は、2023年度入試で6学院中唯一志願者数減少の反動で、111%と増加している。理学院は、101%と微増、工学院は、100%と前年並に落ち着きそうである。前年度の実質倍率が8.5倍となった人気系統の情報理工学院の志望者数は、2024年度入試から募集人員が約30%増加だが、86%と減少している。生命理工学院は112%と増加している。各予備校の出願動向を確認の上、志望学院を変更する受験者が少なからずいると考えられるので、前年度の合格最低点も参考にし出願を検討してほしい。また、第2志望学院まで書けるため、こだわりが無ければ第2志望学院まで書くとよい。ただし、第2志望学院の合格最低点が第1志望学院より高いと、第2志望学院を書く意味は無いため、合格最低点を参考にした上で、バランスのある出願をしてほしい。迷っている場合はZ会スタッフに相談を。

※2023年度合格最低点は高い順に、①情報理工学院【445/750】／②理学院【383/750】／③工学院【380/750】／④環境・社会理工学院【366/750】／⑤物質理工学院【363/750】／⑥生命理工学院【357/750】

## 首都圏国公立医学部動向

首都圏主要医学部の各予備校の第一段階選抜ライン予想は、【駿台/河合】で東医歯医【150 / 145(180点満点)】、千葉医【710 / 706】、筑波医【715 / 711】、横市医【750 / 770(1000点満点)】となっている。昨年同様、大崩れしなかった結果となったが、医学部入試において、このラインについては大きな意味を持たない。合格ボーダーラインについては、東医歯医【166(92.2%) / 162(90.0%)】、筑波大【800(88.9%) / 756(84.0%)】、千葉大

【400(88.9%) / 392(87.1.0%)】、横浜市立大学【880(88.0%) / 860(86.0%)】と、駿台と河合でそれぞれ差があるが、今年の結果を見ると駿台の方を基準とした方が良いと思われる。90%以上得点できた生徒はどこに出願しても問題ない。もちろんハイレベルな入試であることには間違いのないので、個別試験での学力が大きく問われるのは例年と変わらない。地方国公立大については、昨年度よりもラインはやや上がっていて、85%取れば十分、80%を切ると苦戦というところが多い。出願を検討する大学の過去問に急ぎ目を通し、実際に解いて手応えを確かめ、個別試験の目標得点を定めよう。医学を志す諸君の健闘を祈る。

# 出題分析



共通テスト各教科の問題について、Z会教科担当スタッフが分析しました。上位層にとってはどのようなレベルの試験だったのか確認し、個別試験で補強すべき点を考えましょう。

## 英語リーディング

昨年同様、広告やブログといった日常的な素材からやや専門的な論説文まで、幅広いジャンルの英文を題材とした読解問題が出題された。出題形式に大きな変化はなかったが、英文語数が大幅に増加したことにより、受験生にとっては負担増となった。限られた時間の中で英文を素早く読み、必要とされる情報を正確に読み取る速読速解力が、これまで以上に求められる内容だったと言える。今年度はさらに、特に第4問以降において、単なる流し読みでは正解を選べないような問題が複数見られた。英文や資料に含まれる情報を整理し、正しく関連付けて答える必要があるため、解答に時間を要しただろう。第5問の物語文は3ページにわたる長さで、複数の人物の情報が時を前後して提示されていた。登場人物の心情を判断する国語的出題が見られたのが印象的。また第6問Aでは、英文で言及されている専門用語に関して、当てはまる適切な具体例を選ぶという新傾向の問題が見られた。

## 英語リスニング

出題形式・分量・難易度とも昨年度から大きな変化はなし。第1・2問の2回読みパートは落ち着いて全問正解をめざしたい。第3問以降は英文が1回のみ流れる形で、ぐっと難易度が増すので、日頃のトレーニングの成果が問われる。特に第5問の講義を聞いてワークシートを完成させる問題は特に差が付く問題となる。今回はワークシートの内容が比較的簡素であり、事前に得られる情報が少なかったため、例年よりも精密に講義内容を聞き取る必要があった。第6問Bは4名の話者による会話で、各人物の主張を整理しながら正しく聞き取れるかがポイントとなる。会話であれ講義であれ、話されている内容を聞き取って表面的に理解するだけでは不十分であり、きちんと要点をつかめるかが重要。問題ごとに設定された場面・状況下で、与えられたグラフや表などの資料を読み込み、聞き取った情報とあわせて素早く正答を導き出す必要があるため、高い情報処理力が求められる。

## 数学Ⅰ・A

昨年よりも会話文の量が少なく、設定も簡素である。その一方で、各大問や中間の最後の問題は難しいので、全体の難易度は昨年並。第1問[1]は整数部分と小数部分についての問題で、誘導に従えば少ない計算量で解ける。[2]は測量の問題でパラメータの整理を要するが、三角比の定義を用いるだけで解ける。第2問[1]は二次関数と図形の融合問題。自分で変数をおく必要があり、立式もやや面倒なので差がついたか。[2]はデータの分析の問題で、全体的に易しい。第3問は確率の問題で、設定の説明が長く、前問が誘導になっていることに気づく必要がある。第4問は $n$ 進法と1次不定方程式の問題。最後は思考力が試される。第5問は平面図形の問題で、メネラウスの定理や方べきの定理の基本から始まり、点の位置の考察を行なっている。誘導に従いやすく計算量も少ない。

## 数学Ⅱ・B

実社会への応用を意識した問題や長いリード文はほぼなくなり、グラフの定性的理解と論理把握力が試された。特に論理関係の把握についての出題は、苦手な人は苦戦したかもしれない。ただ各問題の前半は易しいものも多く、計算量も少ないので、全体の難易度としては昨年並～やや難である。第1問[1]は対数関数のグラフについての問題で、定性的な理解が必要。[2]は整式の除法の問題で、論理関係の把握についての出題があった点が新しい。第2問は微積分の本質的理解が問われる問題。登場する文字の種類も多く、紛らわしい選択肢も多いため、一問ずつ丁寧に解く必要がある。第4問の前半は漸化式の基本問題なので絶対に正解したい。後半は見慣れない漸化式について考察する問題だが、まずは誘導に従うことが重要。第5問のベクトルは問題集によく載っている典型問題。

## 国語

出題構成は、昨年同様、評論・小説・古文・漢文の全4題。昨年に引き続き、複数文章や授業の会話場面・生徒の学習活動を想定した、情報を整理・統合する力を問われる出題が見られた。古文は馴染みのない出典からの出題で、課題文の読解にはやや苦労したかもしれないが、問4は設問文をヒントにして課題文の該当箇所を読み解くことで正解できる出題であった。全体的に易化しており、知識問題で失点せず、時間配分に気をつけながら落ち着いて設問文と課題文とを正確に読み解くことができれば高得点が可能であり、平均点は上がると思われる。知識面に穴がないか、問題演習を高い精度で行ってきたか、といったこれまでの対策が結果に反映される出題であったと言える。

# 出題分析



共通テスト各教科の問題について、Z会教科担当スタッフが分析しました。上位層にとってはどのようなレベルの試験だったのか確認し、個別試験で補強すべき点を考えましょう。

高1生・高2生に向けて今後のアドバイスを各教科担当から一言。

## 高1生・高2生に向けて英語

★リーディング: 共通テストは読解問題が中心で、発音・アクセントや文法などの知識を個別に問われることがないため、「知らないことが出て想定外の失点をしてしまった」という事態はありません。読解問題は英文を正確に読み取れば必ず答えが見つかるので、英文を正しく素早く読んで理解する「速読速解力」が身につけていれば、必ず高得点を狙えます！高1・高2の間に「速読速解」の基盤となる語彙・文法や構文解釈の力を伸ばすことを意識しながら、日頃の学習を進めていきましょう。

★リスニング: リスニングの力は一朝一夕で伸びるものではありません。本番までの継続的なトレーニングが重要ですので、早い時期から対策を始めましょう。Z会の共通テスト講座などを受講し、出題形式など特徴を早めに把握して演習を積むのが効果的です。

## 高1生・高2生に向けて数学

問題集や参考書に載っている解法をパターンとして暗記する勉強法は通用しなくなっています。教科書に載っていることばの定義や、定理およびその証明を疎かにせず、十分に理解することの方がより一層重要です。そして、解法のテクニックや「解けた、解けなかった」にこだわらず、多角的な視野をもって日々の問題演習に取り組むことが必要です。これらは数学の力をつけるために必要な「心構え」ですが、そこからさらに共通テストで得点できるようになるには「日本語の文章から正しく数式を組み立てる力」や「長いリード文から必要な情報だけを拾う力」も必要となります。これらは独学や学校の勉強だけでは中々身につけませんので、是非Z会の教室で共通テスト対策講座を受講してください。

## 高1生・高2生に向けて国語

2025年度実施から①試験時間が80分→90分に10分増加、②大問数が4問→5問に1問追加(「近代以降の文章」が2問→3問に増加)の大きな変更点がある。1問追加により配点も、いわゆる現代文にあたる3問が110点、古文・漢文の2問が90点に変更となる。昨今の読解すべき文章量の増加に加え、試験時間10分増加に対して大問は1問追加となるため、時間配分に留意しながらスピーディーかつ正確に読解して解答する力がますます必要となる。知識問題も引き続き出題されることが予想されるため、基礎事項を疎かにせず正確に身につけた上で、十分に演習時間を確保できるように逆算して対策を進めましょう。情報処理能力が問われている共通テストにおいて、国語の力は他の教科にも必ず活きます。

## 高1生・高2生対象

大学入学共通テスト  
研究会 速報版

新受験生必見！最新の共通テスト概況と対策法を知ろう！

映像配信      要申込      Web申込可

1月28日(日)より配信開始

↓申込はこちらから↓





# 出題分析



共通テスト各教科の問題について、Z会教科担当スタッフが分析しました。上位層にとってはどのようなレベルの試験だったのか確認し、個別試験で補強すべき点を考えましょう。

## 物理

設問数は20問のまま変更なし。マーク数は26から22に減少した。分量は昨年度から変化なく、難易度は昨年度と同程度となった。物理の幅広い分野から出題され、第1問の小問集合では原子も出題されている。第2問はペットボトルロケットの探求に関する問題で、与えられる文字が多く、微量量も出題された。計算量が増加し、現象への深い理解が求められる。

## 化学

設問数は18から19に増加したが、マーク数は35から31に減少した。計算量は昨年度より減少したが、解答の方針が立てにくい問題が出題されていたため、解答への負担は昨年同様大きかった。そのため、難易度は昨年度と同程度となった。第2問では、電池の量的関係に関する問題にて、方針が立てづらい問題が出題された。また第5問では、質量分析法という、高校化学では深く扱われない題材に関する問題が出題されて、リード文の説明や与えられた例から内容を理解する考察力が必要になった。

## 生物

設問数、マーク数ともに減少して、複数のマークを同じ選択肢から選択する設問があるなどして選択肢数も減っている。考察を要する問題の比率は下がり、また、難度の高い考察問題も減ったことで、負担感はかなり軽くなった。そのため、難易度は昨年度に比べ易化した。第4問では、問題文が長く内容をしっかり理解する必要があり、得点差となっただろう。

## 地学

大問数・マーク数に変更はなかったが、設問数は減少した。難易度は昨年並み。第1問は自然の特徴を表す図やグラフをテーマに総合分野の問題が出題された。文章・資料を正確に読む力、論理的な思考力、総合的な理解力が必要とされる。

## 理科基礎

### 【物理基礎】

設問数は2つ増加、マークは1つ増加。難易度は昨年並み。第1問は小問集合、第2問は力学、第3問は波が出題された。第3問では、空気中を伝わる音の速さについて、異なる三つの方法からそれぞれ求めさせる問題が出題された。

### 【化学基礎】

設問数は1つ減少、マーク数は2つ増加。問10では、解くのに必要な条件をグラフから読み取って、計算後に再びグラフを読み取らせる問題が出題された。

### 【生物基礎】

ページ数、設問数が増加したが、マーク数は1つ減少。考察問題は標準的だが、知識で解く問題はやや深い理解が問われる問題が出題された。負担感は減り、昨年度に比べ易化した。

### 【地学基礎】

設問数・マーク数ともに変化なし。難易度も昨年並み。地学基礎の分野からバランスよく出題された。大問4では、西表島付近の海底火山噴火に関する問題が出題された。地層の問題は取り組んだことがないと難しかった。



# 出題分析



共通テスト各教科の問題について、Z会教科担当スタッフが分析しました。上位層にとってはどのようなレベルの試験だったのか確認し、個別試験で補強すべき点を考えましょう。

## 世界史B

難易度は、昨年並み～やや易。昨年在難化したので、それと単純比較するとやや易しい印象はある。東大・京大・一橋大など最難関大学を志望する方は、9割以上を獲得したいところ。近現代史より前近代史からの出題が多いが、昨年出題されなかった戦後史も出題された。第4問については、王朝ごとの正確な知識が必要で、文化史を絡めた問題も多く、横断型の学習をしていない場合は苦戦したであろう。資料や会話文など複数の材料から必要な情報を読み取り、総合的に判断する問題が増えており、単純な一問一答対策では太刀打ちできない出題であった。

## 日本史B

難易度は、昨年並み。センター試験時代と比較して、史資料の読み取り問題は普遍化されるようになっている。暗記科目からの脱却は顕著で、持っている知識を初見の史資料と組み合わせをして解けるかどうかの鍵となる。世界史同様、最難関大志望は9割以上の獲得は必須。史料を読むには、古文の文法知識が必要な為、それが欠落していると9割以上は難しい。歴史総合も見据えてか、時代の順序を意識した並び替え問題は依然多く出ており、今後はこの形式の出題が増えると予想される。

## 地理B

難易度は、やや易。複数の資料を参照させて解く組合せ式の問題は減少し、時間内に確実に解ききれる分量になっている。自然、資源と産業、都市、地誌、地域調査と出題傾向は変わらず、対策を怠っていない受験生であれば何ら問題はなかったであろう。だが、理系の受験生にとって、後回しにしがちな科目の為、共通テスト型の問題演習をきちんとしておかないと苦戦を強いられたであろう。第1問では自然災害がテーマとなっており、地理総合でもますます重要となる分野からの出題があった。

## 倫理・政治経済

難易度は、全体を通して昨年並み。倫理分野では原文資料・レポートや会話などの長い文章があり、読み解くのに時間がかかる構成だったが、知識自体は標準的なものであった。昨年度と同様の出題形式であり、それほど苦戦したケースは少ないだろう。

政治・経済分野は、やや難易度が高かった。GDPや宇宙に関する国際法などをはじめ、近年の出来事を意識させる設問が目立った。様々な知識・思考力・情報処理力といった設問毎に異なる力が試されたため、時間を要することになったと思われる。

## 現代社会

難易度は、昨年並み。全体として、基本的知識を確実に身につけ、常識的判断も働かせれば解答できる問題が多かった。判決文や条約の内容を踏まえて解く問題、数値を伴う問題、単純な知識問題など様々な形式が出された。設問方式が多様であり、慣れておく必要がある問題形式だったため、類題の演習を多く経験したものが有利な状況となったといえる。共通テスト対策を十分にしているかどうか非常に分かれ目だった。新課程では、『公共+倫理』『公共+政治経済』という形で出題となるため、知識の習得はもちろん、初見の資料読解や様々な資料との比較について練習しておく必要がある。

# 今後の流れ

## Z会卒業までのチェックリスト

### 1月

- 直前講習受講
- 出願大学報告

※出願大学に変更があった場合には必ず教えてください！

### 2月

- 直前大学別実戦受講
- 個別試験受験

### 3月

- 入試結果報告

✿教室へ来室またはお電話でお知らせください。

✿講師・スタッフともに結果を心待ちにしておりますので、必ずご報告ください。Z会スタッフからお電話する場合もございます。

★出願相談受付中★  
各教室スタッフが承ります。  
相談、待ってます！

★直前講習★  
今からの申込み可能です。  
すべて演習形式なので予習不要。個別試験対策に頭を切り替えるために積極的に活用しましょう！

★直前大学別実戦★  
[東大][一橋大][東工大][東外大]本番同様の時間設定での演習＋解説講義で最後の総仕上げを！

# 入試結果報告フォーム

公開期間:2024年2月1日～4月15日(予定)



教室にご来訪いただいての結果報告、  
もしくはお電話でのご連絡も承っています。

皆さんからのご報告、ぜひお待ちしております！

- ・ 御茶ノ水教室 03-5296-2828 ・ 渋谷教室 03-5774-2828
- ・ 新宿教室 03-6258-5404 ・ 池袋教室 03-5985-2828
- ・ 横浜教室 045-313-2828 ・ 葛西教室 03-5878-0844
- ・ 立川教室 042-595-9540 ・ 大宮教室 048-650-5528

※窓口受付時間14:00～21:00(休室日を除く)



# ここから1ヶ月！ 私立&国公立大学個別試験に向けて！ ～各教室長からのアドバイス～

## 御茶ノ水教室

共通テストお疲れ様でした。情報が飛び交う中、不安を抱く人も多いかと思いますが、これまで積み重ねてきたことを信じて、最後まで努力しましょう。個別試験に向けて、勉強面でも精神面でも、しっかり切り替えることが重要です。Z会テキストの復習や過去問の解き直し等、まだまだできることがあるはずなので、万全の態勢で臨めるように準備していきましょう。

## 渋谷教室

共通テストおつかれさまでした。手ごたえは人それぞれですが、全力を尽くした結果なので、まずはそれを受け入れて、個別試験に向けてがんばりましょう。国公立前期入試まではまだ1か月以上と、時間はまだまだあります。受験生が一番得点力をつける時期ですので、ちょっとした成長の実感を見逃さずに、演習&見直しを行っていきましょう！

## 新宿教室

共通テスト、まずはお疲れさまでした。自己採点結果に一安心した人、悔しい思いをしている人、それぞれだと思いますが、気持ちを切り替えて、私大入試や個別試験に臨みましょう！当日までの頑張りが半分、当日本番の粘りが半分で、結果は後からついてきます。ここから次へどう向き合えるかが大切です。悔いだけは残さないように。皆さんが頑張った結果報告を教室で楽しみにお待ちしております。

## 池袋教室

まずは共通テストお疲れ様でした。これから共通テスト→個別試験への頭の切り替えが大切ですが、気が張り詰めていた状態が続いていたと思いますので、疲れがどっと出やすい時期でもあります。規則正しい生活を心掛け、一人で悩まずに何かあれば気軽に受付にきてください。伸びしろのある理科地歴系は時間確保しつつ、語学系は定期的に触れ、演習時には答案作成力・復習を通じたインプット確認をし、残りの期間準備を進めていきましょう！

## 横浜教室

共通テスト、緊張と不安がある中、よく頑張りましたね。お疲れ様でした！どんな結果であれ、大事なのはあと1か月をどう過ごすかです。残りわずかの時期に、最後まで頑張り続けられるかどうか。学力はもちろんのこと、人としても大きく成長できる期間だと思います。この1か月は自分の中で最大限勉強をした、と胸を張っていえるよう勉強してください。結果報告、教室でお待ちしております！

## 葛西教室

共通テストお疲れさまでした。さあ、ここから最後の踏ん張りどころ。気持ちを切り替えて、やるべきことに全力を注ぎましょう。「受かってみせる！」という強い気持ちで勉強することが大切です。入試本番は、実力以上のものを出そうとすると緊張するので、いままでやってきたことを答案用紙に書き出す”作業”だと思って、写経のように粛々と書いてこよう。不安なことがあれば、教室に来て相談を。自信をもって、いってらっしゃい！

## 立川教室

何はともあれ、共通テストが終わりました。改めて、個別試験までラストスパートをかけましょう！ただし、その前に以下の2点を行ってください。  
①個別試験における各教科の目標点を定めること  
②その目標点に到達するために日々何をすべきかを確認すること  
①②に限らず、何かあれば遠慮なく教室スタッフ・講師に相談してください。最後の最後までZ会を最大限に活用し、人生最高の春を迎えましょう！

## 大宮教室

共通テストお疲れ様でした。うまくいった部分、いかなかった部分、それぞれあったと思います。過去は変えられませんが、未来はこれからの行動次第です。今できる最善のことを積み重ねていってください。それが良い結果につながると思います。出願や勉強法で迷ったら先生やスタッフに相談に来てください。迷っていなければひたすら今やるべきことをやってください。健闘を祈ります。



体調に気を付けて。  
個別試験も行ってらっしゃい！